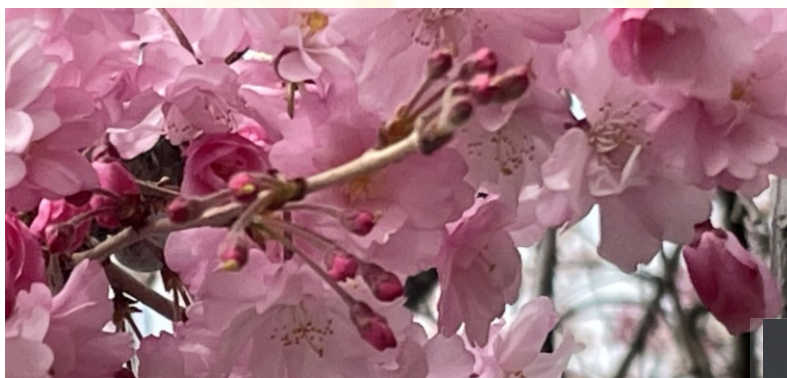


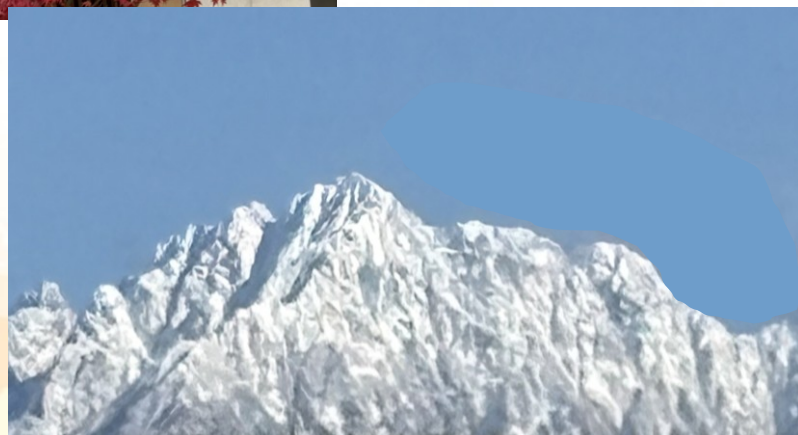
第27号  
2026・3

# けあまね介報



よりよい支援を目指して、  
悩み、学び続ける。

わたしたちも、支えられている。



# 令和7年度事業

要介護高齢者を取り巻く課題は多様化し、多世代にわたる問題や複合的なニーズへの対応が求められています。

こうした状況の中、介護支援専門員には、一人ひとりの暮らしに寄り添い、関係機関と連携しながら支援を組み立てていく専門性がより一層求められています。

本協会では、資質の向上と実践力の強化を目的に、令和7年度の各種研修事業に取り組んでまいりました。その概要を以下のとおりご報告いたします。

## 1. ケアマネジメント力向上事業

目的：ケアマネジメントプロセスを振り返り、専門職としての資質向上を図る。

- (1) ケアマネジメント研修 3回
- (2) 施設介護支援専門員研修

## 2. 多職種連携事業

目的：医療・介護全般に関する相談援助や関係機関との連携調整を行い、社会資源コーディネートやネットワークを構築し、チームマネジメントを行うため、他職種・団体との多様な連携を促進する。

- (1) 障害福祉サービス・医療機関等との情報交換
- (2) その他職能団体との情報交換

## 3. 地域交流事業

目的：少人数事業所が多い中で、活用できる社会資源や情報を共有し、より良いケアマネジメントを実践するために、事業所や介護支援専門員の横の繋がりを強化する。

- (1) 地域ネットワークづくりを目的として市内を3ブロックに分け実施

## 4. 富山市受託事業

目的：富山市の事業実施に協力し、介護保険制度の円滑な運用や、住みよい街づくり・人づくりを共に推進する。

- (1) 介護給付適正化事業（ケアマネジャー研修）
- (2) 介護家族交流会
- (3) 高齢者等の心の健康づくり（ゲートキーパー養成講座）

## 5. 広報事業

目的：介護支援専門員の役割や当協会の活動を社会に広め、更なる専門性を磨くことに努める。

- (1) けあまね介報の発刊
- (2) 意向調査等の実施

## 6. その他

介護支援専門員がより質の高い適切なケアマネジメントを提供できる環境づくりを図るための事業に協力する。

# R7年度 総会・基調講演

令和7年度富山市介護支援専門員協会総会

日時:令和7年5月15日(木)13:30-15:30

会場:富山県市町村会館 2階ホール

出席者:115事業所(うち 委任状:事業所会員47名, 個人会員3名)

令和7年5月15日に開催された総会は参加事業所65事業所に加えて47事業所, 個人会員3名から委任状が提出されました。これにより会員総数の過半数を満し、議事では令和6年度の事業報告及び決算報告、令和7年度の事業計画および予算案, 役員改選案が満場一致で可決されました。令和7年度事業は本総会で承認された計画に基づいて推進いたしました。

## 基調講演

演題:対人援助を「あなた」と「わたし」の地平に引き戻すケアリングの在り方  
～ケアマネジャーという役割を引き受けている私を「わたし」が思いやるために～

講師:一般社団法人ものがたりの街 代表理事特命補佐

全国福祉用具相談・研修機関協議会理事 臨床心理カウンセラー 西野雅信 氏

総会に引き続き、基調講演 対人援助を「あなた」と「わたし」の地平に引き戻すケアリングの在り方～ケアマネジャーという役割を引き受けている私を「わたし」が思いやるために～と題し、西野様より大変深みのあるご講演をいただきました。

「対人援助」には「援助」である以上、パワーバランスが生じてしまう。バランスを取る事に気を取られると本来の対応かつ公平中立なケアマネジメントに注力する事が難しくなることもある。基本に立ち返り、「あなた」と「わたし」の対等な関係性を立ち戻すことができれば人間同士として課題や目標を共有しながら共に向き合っていく事ができるようになるのではないかと。ケアマネジャーが自己犠牲的にならず、もっと自己価値を高め、自己承認、自己肯定を育みながら、自身を持って自分の能力を如何なく発揮できるように心理学的実践理論である「ケアリング」を中心に、その理論やアプローチを紹介されながら、より自由で対等な関係性におけるケアリングについてショートワークを交えてケアの本質まで学ぶことができました。



参加者アンケートより、「日々悩みながらケアマネ業務を行っているが、自分の行動を振り返り、心の応援を頂いたような講演でした。元気の薬をありがとうございました。」と臨床心理カウンセラーの西野様ならではの感想や「パワーバランスを地平に引き戻す技術ができるようになればケアマネの技術が向上できる。」と今後のマネジメント力向上につながる意見が多数聞かれました。



# ケアマネジメント力向上事業

## 1回目

日時:令和7年11月14日(金)14:00~16:00  
会場:富山県総合情報センター セミナー室ABCD  
「介護保険制度と障害者制度の違いを学ぶ」  
参加者:74名

### 多職種連携事業

前半はケアマネジャー向けに富山市基幹相談支援室 柴田氏、相談支援員向けに在宅福祉総合センターひまわり 岩城氏より場所を変えて各制度の説明があり、その後集合してグループワーク「65歳の壁について考えよう」をテーマに疑問に思っていることや困難と感じていることを話し合いました。参加者からは・今日のような研修会も継続的に参加したい・相談支援事業所との連携加算など制度的サポートを希望したい・移行支援に関する共通のわかりやすいリーフレットを作成してほしいなどの意見が出ました。最後に名刺交換を行い、連携の必要性をお互いで確認しあえた研修となりました。



## 2回目

日時:令和8年1月16日(金)14:00~16:00 オンライン開催  
「ケアマネの仕事はどこまで? グレーゾーンをすっきりさせる!  
業務の見極めとリスク回避の秘訣」  
講師: 株式会社ケアレジエ 代表取締役 高松 誠 氏  
参加者:68名

「ケアマネの仕事はどこまで? ~グレーゾーンをすっきりさせる~」が開催された。講師の高松誠氏は、ケアマネジャーが日々直面する“業務範囲の曖昧さ”に焦点を当て、買い物依頼や通院付き添い、財産管理、入院中の洗濯物対応など、現場で迷いやすい事例を「法定業務」「保険外サービスとして対応しうる業務」「他機関につなぐべき業務」に整理して解説した。過剰なシャドーワークが責任の不明確化やバーンアウトにつながる危険性、そして地域資源につなぐ視点の重要性が強調された。



今回の研修は、ケアマネジャーが抱える葛藤に光を当て、「どこまでが業務か」を立ち止まって考える貴重な機会となった。アンケートでは、「できないことを伝える大切さに気づいた」「一人で抱え込まない視点を持てた」「次に引き継ぐことができる関わりを意識したい」など、実践に直結する声が多く寄せられた。善意で続けてきた支援が自立支援を妨げる可能性への気づきや、説明し続けることの重要性を再認識したという意見も多かった。今回の学びを、重要事項説明書の見直しや事業所内での共有につなげ、より質の高いケアマネジメントを目指す姿勢が感じられる研修となった。

## 3回目

### 「弁護士が関わる生活困窮者への支援について」

講師：法テラス魚津法律事務所 弁護士 佐藤晋一氏

日時：令和8年2月12日(木) オンライン開催(Zoom) 参加者：78名

「弁護士が関わる生活困窮者への支援について」と題し、弁護士の佐藤様にご講義をいただきました。法テラスの概要説明をはじめ、民事法律扶助制度、債務整理、成年後見制度の活用、生活保護制度など、幅広い内容に加え、実際のケースに関する質疑応答も行われ、非常に充実した講義となりました。参加者からは、「特定援助者支援事業や民事法律扶助制度など、これまで知らなかった制度を知ること、支援の選択肢が広がった」「ケアマネジャーとしての役割や限界、いわゆるシャドーワークの実態について再認識する機会となった」といった意見が寄せられました。



## 介護支援専門員実務研修受講試験 直前セミナー

日時：令和7年9月12日(金)会場：富山県市町村会館研修室 参加者：39名

【講師】富山市介護保険課 佐野 文 恵 氏  
アモール居宅介護支援事業所 石橋 由利恵 氏  
桜谷の里デイサービスセンター 五社 拓 也 氏

参加者数は、昨年度を超える39名の方にご参加いただきました。

セミナーでは試験範囲の3分野に分けて実施、介護支援分野を佐野氏、保険医療サービス分野は当会石橋副会長、福祉サービス分野は五社氏にそれぞれの専門分野について講義を行っていただきました。

参加者の皆様が全員合格して欲しいという各講師の意気込みが感じられ、試験のポイントをまとめた資料や説明に加え、過去の出題の傾向と対策、実際に問題を解きながらの解説など試験対策として非常に実践的な内容でした。

参加者の皆様からは「研修の方法が体験的で楽しかったですし、分かりやすかったです。自分の現在の実力が分かりました。」「ただ内容の説明されるよりも問題の解説と知識を同時に学ぶことができ良かったです。」「要点をしっかり押さえて、問題や解説して頂いたのが分かりやすくて良かったです。」との嬉しい声が聞かれました。



### A グループ

日時:令和7年12月4日(木) 14:00~16:00

参加者:28名

事例:家族と上手につき合うための「今後のかわり方の見出し方」



介護者との関係づくりをテーマに事例を交えながらグループワークを行いました。

- ①一度崩れた関係性をどうしたら立て直すことができるか
- ②ケアマネジャー自身がストレスを感じた時の解決方法や心のモチベーションの保ち方の二つのテーマでグループごとに話し合い、①では、介護者とのコミュニケーション方法の工夫・介護者へのねぎらいをしつつ、適度な距離を保つ・今一度ケアマネジャーの仕事についての説明をする・他の家族にも介護にかかわってもらえないか一緒に検討する。②では、スポーツで発散する・事業所内でストレスを吐き出す・割り切る・相性もあるので、担当者交代も検討などの率直な意見がたくさんでて、事例検討者へのねぎらいとお土産を持参していただくことができた研修となりました。



### B グループ

日時:令和7年11月28日(金) 14:00~16:00

参加者 29名

事例「“私は出来る”を尊重しながら支えるには  
～本人の意向と家族の不安の間で揺れる支援～」



テーマは「“私は出来る”を尊重しながら支えるには ～本人の意向と家族の不安の間で揺れる支援～」でした。本人の“できること”を大切にしつつ、家族の不安や希望との調整をどのように図るか、ケアマネジャーが日々直面する課題について、活発な意見交換が行われ、支援の視点を深める貴重な機会となりました。  
研修後には反省会も実施し、今後の支援に生かすための振り返りを行いました。

### C グループ

日時 令和7年12月11日(金) 13:30~15:30

参加者 34名

事例「精神的な不安を常に抱えている要支援の夫と  
認知症の妻への支援」



Aさんの度重なる救急要請により近隣や家族が困っており、家族から担当ケアマネへの苦情も生じるなど、支援者への負担が大きい事例であった。本人は精神科入院中で診断名が不明確なため、退院後の生活像が掴みにくく、担当ケアマネ一人での対応が難しい状況が共有された。

検討会では助言者より、「一人で抱え込まず、多職種で支えることが最重要」と指摘があり、退院カンファレンスや地域ケア会議を早期に行い、地域包括・民生委員・サービス事業所などと連携する方向性が確認された。また担当ケアマネの経験が浅いため、経験豊富なケアマネとの交代、または包括との共同担当が望ましいとの助言もあった。

これらの意見により支援の見通しが立ち、事例提供者も「気持ちが一層軽くなった」と述べ、チーム支援の大切さが再確認された。

# あるある事例検討会を終えて



今回、令和7年度の事例検討会にサポーターとして初めて参加された方にお話を伺いました。

インタビュー

サポーター(初参加)

少し緊張してます  
よろしくお願いいたします。

Q. サポーターをやってみていかがでしたか？

A. 初めてで分からないことも多く不安もありましたが、理事や助言者の方々に支えていただき、安心して関わることができました。とても貴重な経験になりました。

サポートしていただきました！

Q. 印象に残っていることはありますか？

A. 様々な意見が出る中で、事例提供者の方が“本当に解決したいこと”に気づけるように関わることの大切さを感じました。また、自分自身の成長にもつながったと感じています。

本当に解決したいことは何だろう？

Q. 大変だったことや今後の課題は？

A. グループで多くの意見が出た分、まとめることの難しさを感じました。事前に「課題⇒理由⇒サービス」といった整理の視点を共有できていれば、より良かったと思います。また、他のグループの意見も共有できる工夫があれば、さらに学びが深まると感じました。

事前に視点を共有できていれば…

課題 → 理由 → サービス

他グループの意見も共有できたら…

Q. これからサポーターを考えている方へメッセージをお願いします。

A. 最初は不安もあると思いますが、周りのサポートがあるので安心して参加できます。事例検討を通して多くの気づきがあり、自分自身のスキルアップにもつながります。ぜひ一歩踏み出してみてください！

安心して参加できる！

スキルアップ！

多くの気づき！

皆さんのご参加をお待ちしています！

地域交流事業あるある事例検討会は、令和8年度も継続予定です！

サポーターって？難しいそう？

「なかなか意見が少なくて大丈夫かな…」「まとめられるかな…」

そんな不安や心配もあると思いますが、実はそれ、みんな同じように感じています。でも大丈夫！

“サポーターはうまくやる人”ではなく、“一緒に考え、場を支える人”です。一歩踏み出すことで、視点が広がり、気づきの数だけ、自分の引き出しが増えていきます！



ぜひ、サポーターのご参加お待ちしております。

募集要項等改めてご案内いたします。



# 施設ケアマネジャー研修

日 時：令和8年1月14日（水） 13：30～16：30

## ①「高齢者向け施設における感染症対策」

講師：富山県立中央病院感染対策室長（感染症専門医）

彼谷 裕康 氏

講師：富山県立中央病院感染対策上席主任（感染管理認定看護師）高本 良子 氏

## ②「高齢者に多い皮膚疾患・予防と治療について～疥癬・带状疱疹について」

講師 富山赤十字病院 皮膚科副部長 中尾 将治 氏

## ③「褥瘡感染について」

講師 富山赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 室林 紀子 氏

共 催：「富山市介護支援専門員協会」「とやまケアマネ羅針盤（コンパス）の会」

会 場：富山市社会福祉協議会 3階 大ホール

参加人数： 施設 20名 居宅・他 26名 計46名

## ①「高齢者向け施設における感染症対策」（講義・ガウンテクニック実技）

手指消毒の徹底や防護服の正しい着脱方法について、講義と実技を通して実践的に学びました。日常のケアの中で即活用できる内容であり、感染症対策の重要性を改めて認識する機会となりました。

## ②「高齢者に多い皮膚疾患・予防と治療について

～疥癬・带状疱疹について～」（講義）

疥癬や带状疱疹について詳しく学ぶことができました。専門的な内容も多く理解を深める貴重な機会となりましたが、資料配布の要望もあり、後日講師へ依頼し、資料をメールにて共有しました。

## ③「褥瘡感染について」（講義）

褥瘡の発生要因や感染予防について理解を深めることができました。事業所内でのケアはもとより、在宅で支えるご家族への助言にも活かしていきたいという声が聞かれました。





# ケアマネジャー研修 (富山市から受託事業)

日時：令和7年12月22日(月) 13:00~17:00

場所：ANAクラウンプラザホテル 3階ASUKA

参加者数：68名

## 「書くべきことをもらさない！居宅介護支援経過」

～利用者の権利擁護と事故予防のために、記録の効率化を推進しよう！～

講師：一般社団法人あたご研究所 代表理事 後藤 佳苗 氏

一般社団法人あたご研究所 代表理事 後藤 佳苗 先生を講師にお招きし、「書くべきことをもらさない！居宅介護支援経過 ～利用者の権利擁護と事故予防のために、記録の効率化を推進しよう！～」と題して、講義いただきました。

講義では、介護保険制度の理念を踏まえ、ケアマネジメントにおける居宅介護支援経過の意義とその目的やルール、流れを意識した記録のとり方や医療連携の証拠(加算)となる適切な記録のとり方など法的根拠に基づいた居宅介護支援経過の記録方法について説明いただくとともに、高齢者虐待防止の推進、身体的拘束等の適正化、カスタマーハラスメント対策に向けた事業所の健全経営について説明いただきました。講義の中ではグループワークも行われ、参加者同士で意見交換も活発に行われていました。

参加者からは、

- ・ 法的根拠に基づく記録のとり方について再確認できました。
- ・ 加算の算定要件とその記録のとり方について学ぶことができました。
- ・ 事業所経営における権利擁護やハラスメント対策などの体制整備について学ぶことができ、大変参考になりました。
- ・ いつも後藤先生の講義はわかりやすく、とても参考になり、今後の居宅介護支援に活かしていきたい。

などの声が聞かれ、各参加者にとって日頃のケアマネジャー業務を見直す良い機会となりました。



# こころのゲートキーパー養成研修

(富山市から受託事業)

R7年9月11日(木)14時30分～16時

場所 富山市保健所 参加者数39名

講師 さくらまちハートケアクリニック 院長 荒井 秀樹 先生



はじめに富山市保健所保健予防課社会福祉士 清水 里紗子氏より「誰も自殺に追い込まれることのない富山市の実現を目指して」と題してご講義をいただき、続いて、さくらまちハートケアクリニック院長 荒井秀樹先生より「気づき・つなぎ・支える～高齢者の心の声をきく～」をテーマにご講演をいただきました。

保健予防課からは、富山市における自殺の現状や自殺予防対策の必要性、ゲートキーパーの役割についてご説明いただきました。

また、荒井先生の講義では、症例を交えながら、高齢者の孤立や孤独への理解を深めるとともに、話を「聴く」場面だけでなく「伝える」場面でも意識すべき点など、傾聴のポイントやコミュニケーションのあり方について具体的に学ぶことができました。

参加者からは、「自身のコミュニケーションスキルを見直す必要性を感じた」「声かけの工夫について学ぶことができた」「一人で抱え込まず、他者につなぐことが支援につながると理解できた」などの感想が寄せられました。



## 介護者の心の交流会

(富山市から受託事業)

「老人ホーム？たくさんあってわからない」

講師:株リーブ 代表 島津章子氏

「それって救急！？救急車を呼んだらどうなる？」講師:富山市消防署・救急救命士

R7年10月 13日(木)・18日(火)

※いずれも会場 ANAクラウンプラザホテル

時間 13時00分～15時 参加総数31名



午前中は、グループに分かれて介護者同士の情報交換を行いました。

日頃の悩みや、工夫を共有し合うことで互いに支え合う有意義な時間

となりました。昼食は、同ホテル「雲海」にて季節のランチを召し上がっていただき、日常の介護からひととき離れ、くつろいだ時間を過ごしていただきました。

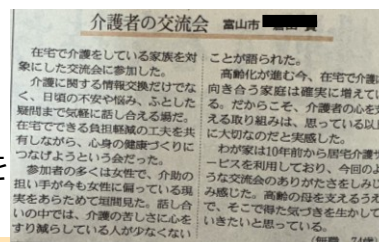
午後は、「老人ホーム？たくさんあってわからない」をテーマに、介護施設の選び方について、株式会社オリーブの島津章子氏よりご講義をいただきました。続いて、「それって救急！？救急車を呼んだらどうなる？」と題し、富山市消防署の救急救命士の方より講義をいただきました。

施設選びのポイントや、緊急時の適切な対応について具体的に学ぶ機会となり、参加者の理解を深めることができました。

後日、新聞読者欄に投稿してくださったご家族

はがきで思いを届けてくださったご家族

この事業が介護者を支える一助になっている事を実感しました。



## 第15回 日本介護支援専門員協会 北陸ブロック研修会にて 熱中症高齢者へのケアマネジメント実態調査 ポスター発表

### 【はじめに】

近年、地球温暖化の影響により夏季の気温が上昇し、熱中症による死亡者数は増加傾向にあります。令和6年には、亡くなった方のうち65歳以上が85%を占めており、高齢者が特に重症化しやすいことが明らかです。これは、加齢に伴う身体機能の低下に加え、治療を行っても回復が難しいケースが多いためとされています。

### 【目的】

高齢者の熱中症は、予防と迅速な対応が極めて重要です。そこで、介護支援専門員がどのような対策を講じ、ケアマネジメントにどのように活かしているかを調査・共有することを目的としました。

### 【調査内容】

① 在宅利用者を主な対象とする介護支援専門員に対し、匿名性を確保したうえでGoogleフォームおよびFAXにて以下の項目について回答を依頼しました。

・対象：富山市内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターに所属する介護支援専門員

・調査期間：令和7年7月1日～8月31日

・調査項目：熱中症を発症した高齢者の属性、発症要因、ケアマネジメントの変更点、予防策、地域・行政への要望および提案 ※熱中症の定義は「熱中症環境保健マニュアル2022」に準拠しました。

② 一般社団法人 富山県介護支援専門員協会の地域ブロック理事に対し、各地域の実情や対策について自由記述形式で回答を依頼しました。

### 【結果】

① 介護支援専門員（回答者数：206名）

熱中症の発症があったと回答したケアマネジャーは39.8%でしたが、全体の発症件数は1.8%（133件／7314件）と少数であり、その多くが軽度（熱中症レベルⅠ）でした。日頃からの様子観察や予防の声かけが有効に機能していると考えられます。また、独居よりも家族同居のケースで重症化する傾向が見られ、専門職による判断力や機動力の発揮が難しいことが影響している可能性があります。主な発症要因としては、水分摂取不足、認知機能・感覚機能の低下、生活習慣が挙げられ、これらに対する効果的な対応策の検討が今後の課題です。ケアマネジメントの変更点としては、本人および家族への理解促進の徹底、訪問系サービスの強化、通所サービスやショートステイへの切り替えなどが多く、迅速な対応が実践されていました。モニタリング時に熱中症予防のリーフレットを配布するケアマネジャーも多く、地道な取り組みが効果を上げていると考えられます。

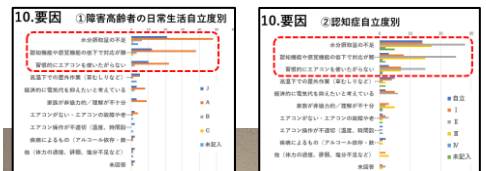
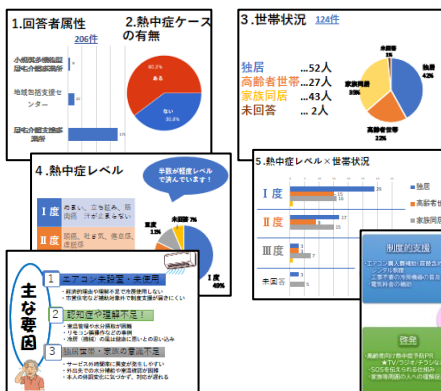
② 地域ブロック理事（県内7ブロック）

概ね上記と同様の傾向が見られましたが、行政規模が小さい地域ほど周知が行き届きやすく、介護予防教室や地域サロンなどを活用した地域ぐるみのきめ細やかな対応が行われていました。また、盆地特有の高温多湿や熱風の吹き返しにより熱中症リスクが高まる地域では、特に注意を払っているとの報告もありました。

### 【おわりに】

2025年6月1日より労働安全衛生規則が改正され、職場での熱中症対策が義務化されました。熱中症は誰にでも起こり得る疾患ですが、高齢者は特に夏季の体調変化に注意が必要です。予防策を講じることでリスクを減らすことができ、ケアマネジャーの日々の取り組みと地域・行政との連携が、より効果的な対応につながると考えられます。

アンケートのご協力ありがとうございました！



## 退任あいさつ

富山市介護支援専門員協会の設立当初より会長を務めさせていただき、25年という長きにわたり歩んでまいりました。今日まで活動を続けてこられましたのは、ひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

本会は「ケアマネジャーの職能向上」と「地域福祉の充実」を掲げ、試行錯誤を繰り返しながら歩んでまいりました。日々、現場で利用者様やご家族に寄り添い、真摯に課題と向き合い続ける皆様の姿には、常に深い敬意を抱いておりました。

こうした志を同じくする皆様と共に歩ませていただいた時間は、私にとって大きな財産です。少子高齢化が加速する中、ケアマネジャーに求められる役割は今後ますます重要性を増していきます。制度と人、そして地域をつなぐ架け橋として、皆様がこれからもご活躍されることを切に願っております。

結びに、本会が新たな体制のもとでさらなる発展を遂げることを確信し、併せて皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、退任の挨拶とさせていただきます。長い間、本当にありがとうございました。

富山市介護支援専門員協会 会長 高原 啓生

## 編集後記



最後までお読みいただき、ありがとうございました。

日々の支援の中で、「これでよかったのだろうか」と立ち止まることは、誰にでもあるのではないのでしょうか。

ケアマネジャーの仕事に明確な正解がないからこそ、悩み、考え続けるその時間自体が、支援をよりよいものに行っているのだと思います。

見えにくい仕事ではありますが、その一つひとつの関わりは、ご利用者・ご家族の支えとなり安心や笑顔につながっていると思います。

「未来とは、今である。」

(マハトマ・ガンディー)

今この瞬間の関わりが、これからの支援や関係性をつくっていきます。

それぞれの歩みを大切に、時には立ち止まり、誰かに相談しながら無理のないペースで…

「支える私たちも、支えられている存在」

(生)



## オープンチャット活用のお勧め！ 「ケアマネ便利帳（富山市版）」

普段こんな事ないですか？

- ちょっと 法令について不安
- いまさら 聞けないあれこれ！
- 今、入りやすい施設は？
- 医療サポートの強いサ高住はどこ？

などなど、市内のケアマネが気軽に情報交換できる場所になればとオープンチャットを作りました。

\*いち早く研修案内、ホームページの情報更新の案内配信します！



### メールアドレス登録のお願い

昨年度より、メールアドレスをご登録いただいた皆さまには、研修案内等の情報配信を行っております。

未登録の方は、ぜひメールアドレスのご登録をお願いいたします。

また、一部の事業所様において、メールが送信できないケースが確認されております。

令和7年度中に一度もメールが届いていない場合は、登録されたメールアドレスに誤りがある可能性がございますので、お手数ですが再度ご登録をお願いいたします。

\*メールアドレスの登録はホームページからでもできます！

富山市介護支援専門員協会(千石ケアサービス内)

〒930-0066

富山県富山市千石町5-3-7



076-491-4375

